

「赴粥飯法」に学ぶ



「五観の偈」は今「典座教訓」という食事を作る人の心得が書かれたもの、

「典座教訓」という食事を作る人の心得が書かれたもの、

「食事の偈」

上分三寶 上は仏法僧の三寶に分ち
中分四恩 中は国王父母衆生三寶の恩に分ち
下及六道 下は地獄餓鬼畜生修羅人間夫井の六道にある
皆同供養 かいどうくよう
一口為断一切悪 ひとつぐちを断じたため
二口為修一切善 ふたごちを修めたため
三口為度諸衆生 さんごちを度して生けるすべての衆生を救つたため
皆共成仏道 かいどうが出来るまで共に成ります

さい」ということが書かれていいます。物の大切さ、有難さを伝えたかったの

を尽くすべきであると示されるのです。禅門の食事作法の最後には、食器を洗い清め、

まだまだだと思つていましたが、大法要が今年になりました。一ページの「曹洞宗の行事」和尚の第一歩の説明があり

編集後記



かきみす

発行所 普門山 林泉寺
三戸町斗内字 寺牛25
〇一七九
二五二八五〇
啓誠

謹賀新春



悲しみが去り 歳新しくなると 福の神が 幸を包んで 龍をつれてやってくる

新しい年を迎えて

新年明けましておめでとございませう。毎年の事ですが、今年こそは良い年だ

世界的にみても余りにも衝撃的な出来事が、私達日本の、東日本大震災発生、福島原発で高濃度の放射能漏れ、そして、

去年は「災害」「事故」「民主化運動」「経済問題」「地球環境」などがキーワードになった様です。

れた出来事でした。私達はこの出来事を絶対に忘れない、そして、この現実を後世に残し、きちん



いよいよ今年の十月

平成二十二年に皆さんにご案内し、寄付のお願いをしまし



後は、法要関係（案内寺院、仏具の整備・点検等）、環境整備（本堂内・境内地の整備等）、二つとなりました。

